＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	看護学概論	対象学生・時期	1年生・前期
		講義時間（単位）	30時間（1）
講師名	病院で看護部長の勤務経験		
科目目標	1. 看護の本質および看護の概念を理解する 2. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統一体として理解する 3. 人間にとっての健康の意義について理解する 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割と看護活動のありかたを理解する 5. 看護の歴史を通して、現在の看護の位置づけ及び諸問題を理解する		

回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	看護とは	1.「看護とは何か」をレポートする	講義	
2 3		1. 看護の本質 2. 看護の役割と機能 3. 看護理論家の看護概念		
4 5	看護の対象の理解	1. 人間のこころとからだ 2. 生涯発達し続ける存在としての人間		
6	国民の健康状態と生活	1. 健康とは 2. 国民の健康状態 3. 国民のライフサイクル		
7	看護の提供者	1. 職業としての看護 2. 看護職の資格・養成制度・就業状況 3. 継続教育とキャリア開発 4. 看護職の養成制度の課題		
8	看護における倫理	1. 職業倫理と看護倫理 2. 患者の意思決定支援と守秘義務 3. 倫理的ジレンマ		
9 10 11	看護提供のしくみ	1. サービスとしての看護 2. 看護提供の場とチーム医療 3. 看護をめぐる制度と政策 4. 看護サービスの管理 5. 医療安全と医療の質保証		
12	広がる看護の活動領域	1. 国際化と看護 2. 災害時における看護		
13 ・14	概論まとめ	1.「目指す看護師」プレゼンテーション	演習	
15	単位認定試験・まとめ			

評価方法	筆記試験・レポート		
使用テキスト	系統看護学講座　看護学概論　医学書院 看護職の基本的責務　　日本看護協会出版会		
備考	フロレンス・ナイチンゲール著：「看護覚え書き」改訳第8版現代社　2023		
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキストで事前・事後学習を行う

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	看護倫理	対象学生・時期	3 年生・前期
		講義時間（単位）	15 時間（1）
講師名	専任教員		
科目目標	1.　看護者としての職業倫理を理解する 2.　より良い看護の実現に向けた倫理的問題の分析および倫理的意思決定の方法を理解する		

回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	看護倫理と職業倫理	1. 患者の権利擁護 2. 患者のプライバシー保護 3. 看護師の倫理規定 1）看護師の責務 2）看護実践に関わる倫理の原則	講義	
2		4. 職業倫理 1）看護を取り巻く倫理的課題とその背景や歴史の理解 5. 道徳的ジレンマと倫理的課題 1）日常のケア場面における倫理的課題 2）先端技術医療における倫理的課題		
3	看護師としての自覚と責任のある行動	1. 生命・尊厳権利の尊重と擁護 2. 守秘義務の尊厳と個人情報の保護 3. 自己の責任と能力の的確な把握 4. 看護師としての健康と品行を維持 5. 環境問題においての社会と責任の共有 6. ニーズの把握 7. 受容的・共感的態度 8. 説明と同意 9. 信頼関係を築く行動 10. 意思決定のプロセス	講義	
4			演習	
5				
6				
7				
7.5	単位認定試験・まとめ			

評価方法	筆記試験・レポート		
使用テキスト	系統看護学講座　看護倫理　医学書院 看護職の基本的責務　　日本看護協会出版会		
備考	事例を用いて演習をする		
自己学習時間	30 時間	事前・事後課題	実習で感じた倫理的課題を想起して授業に臨む テキストで事前・事後学習を行う

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	共通基本技術	対象学生・時期	1年生・前期
		講義時間（単位）	30時間（1）
講師名	専任教員		
科目目標	1. 看護活動における基本的技術を理解する		

回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	人間関係発展の技術	1. コミュニケーションの意義・目的 2. 良好なコミュニケーションに必要な技術 3. コミュニケーション障害への対応	講義	
2			演習	
3	感染予防	1. 意義 1）感染防止の基礎知識 2）感染経路別予防策 3）洗浄・消毒・滅菌	講義	
4		2. 標準予防策 （スタンダードプリコーション） 3. 無菌操作 4. 感染性廃棄物の取り扱い 5. 針刺し防止策		
5		6. 標準予防対策の実際	演習	
6		7. 無菌操作の実際		
7		スタンダードプリコーション		
8	安全確保	1. 安全管理対策 2. 誤薬防止 3. チューブ類の予定外抜去防止 4. 患者誤認防止	講義	
9		5. 転倒・転落防止 6. 薬剤・放射線暴露の防止	演習	
10	看護における 観察・記録・報告	1. 看護記録とは 2. 記載・管理における留意点 3. 看護記録の構成	講義	
11	学習支援	1. 看護における学習支援とは 2. 様々な場で行われる学習支援	講義 演習	
12				
13		3. 健康状態の変化に伴う学習支援 4. 個人・家族・集団を対象とした学習支援	講義 演習	
14				
15	単位認定試験 まとめ			

評価方法	筆記試験		
使用 テキスト	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎･臨床看護技術　医学書院		
自己学習 時間	15時間	事前･事後学習	テキストで事前学習･事後学習を行う 技術練習を行う

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	日常生活の援助技術Ⅰ （環境）	対象学生・時期	1年生・前期
		講義時間（単位）	30時間（1）
講師名	専任教員		
科目目標	1. 環境調整の意義を理解し、快適な療養環境を整えるための技術を習得する		

回数	主題	主な学習内容	講義形態	担当
1	療養生活の環境	1.人間の健康と環境 1）環境の意義 2）環境の視点 (1) 物理的環境 (2) 対人的環境 (3) 管理・教育的環境 2. 生活環境の調整（温度、湿度、照度、騒音、換気、採光、臭気、色彩、プライバシー） 3. ナイチンゲールから学ぶ	講義	
2・3				
4	病室環境	1. 病室の構成 2. 病院で働く人々 3. 療養環境のアセスメント 1）感染や事故防止の原因・誘因 2）快適な環境		
5		4. 病室環境の実際 1）対象が生活する場としての環境 （物理的環境） (1) 病棟・病室の構造、寝床、寝具、屋内気候、温度、湿度、気流、採光、照明、空気、騒音などの環境因子 (2) 生活空間の安全確保の工夫 (3) 管理・教育的環境の実際：ナースステーション内	病院見学 演習	
6				
7	療養環境の整備	1. ベッドメーキング 1）目的 2）実施方法 (1) シーツ類・掛け物のたたみ方 (2) マットレス・枕・リネン類の選択 (3) 下シーツ・枕の作成	講義 演習	
8				
9				
10		2. ベッドメーキングの実際	講義 演習	
11		3. 臥床患者のリネン交換		

12		1）包布を使用した掛け物 2）2 人で実施する方法 3）1 人で実施する方法		
13		4. ベッド周囲の環境整備 1) 安全確保と心理的安定につながる環境　整備の方法 2）危険因子・事故防止	講義	
14		5. ベッド周囲の環境整備の実際 1)療養環境における対象の日常生活 （1）危険防止・事故防止を考えた環境 （2）健康回復の段階に応じた環境	演習	
15	単位認定試験 まとめ			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院　第 2 版			
参考資料	フロレンス・ナイチンゲール著 :「看護覚え書き」改訳第 8 版現代社　2023			
備考	10 回目は技術確認、14 回目の演習はシミュレーションを行う			
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前・事後学習を行う 技術練習を行う	

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	日常生活の援助技術Ⅱ （食事・排泄）	対象学生・時期	1年生・前期
		講義時間（単位）	30時間（1 ）
講師名	専任教員		
科目目標	1．栄養状態を整える意義を理解し、対象の状態に適した食事援助の技術を習得する 2．排泄を整える意義を理解し、対象の状態に適した排泄の援助技術を習得する		

回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	人間の健康と食事	1. 食事の意義 1）生理的　2）心理的　3）社会的 2. 健康な食生活 1）消化・吸収の器官と役割 2）嚥下と咀嚼 3）食事摂取と排泄の関係 3. 栄養状態のアセスメント 1）全身状態の観察 2）身体計測・発達段階を考慮した算出法 3）血液・尿などの臨床検査データ 4）栄養摂取量・エネルギー必要量の基準 5）水分・電解質のアセスメント 4. 摂食および食欲、食に関する認識のアセスメント 1）摂食・嚥下能力 2）摂食行動	講義	
2	医療施設で提供される食事	1. 医療施設で提供される食事 1）一般食（普通食）2）特別食　3）食形態 2. 食事介助の基本 1）環境　2）姿勢　3）自助具 3. 摂食・嚥下訓練の方法 4. 嚥下機能の検査 ※課題として、自宅で食事摂取の体験を実施する	講義 GW	
3	食事の援助	1. 食事摂取体験の共有 2. 食事に関する対象のアセスメント 3. アセスメントを踏まえて食事援助計画の立案	講義 GW	
4		1. 非経口的栄養摂取の援助 1）経管栄養法 (1) 経鼻経管栄養法 (2) 胃瘻法 (3) 空腸瘻法 2）中心静脈栄養法	講義	
5		1. 食事摂取の援助の実施 2. 食事援助における看護師の役割についてのまとめ	演習 GW	
6	人間の健康と排泄	1. 排泄の意義 1）生理的　2）心理的　3）社会的 2. 排泄のメカニズム	講義	

		1）排尿　　2）排便 3. 排泄援助を提供する看護師の役割 1）排泄の意義についての理解 2）援助を受ける対象の理解		
7		1. 排泄のアセスメント 1）排尿の正常と異常　　2）排尿障害 2. 排便のアセスメント 1）排便の正常と異常　　2）排便障害 3）下痢・便秘 3. 排泄行動 4. 心理・社会的アセスメント	講義	
8	対象の状態に応じた排泄の援助（尿器・便器・おむつ）	1.自然０な排泄を促す援助 1）トイレの排泄介助 2）ポータブル便器（トイレ）の使用方法 2. 排泄用具を用いた排泄援助 1）床上排泄（尿器・便器）　　2）おむつ 3. 排泄物の観察	講義	
9		1. 尿器を使用した排泄の援助の実際 2. 便器を使用した排泄の援助の実際	演習	
10		1. おむつを用いた排泄の援助の実際	演習	
11	対象の状態に応じた排泄の援助（導尿・浣腸）	1. 導尿とは 1）導尿が必要な対象(男性・女性) 2）一時的導尿の援助 3）持続的導尿の援助	講義	
12		1. 一時的導尿の実施	演習	
13		1. 侵襲を伴う排便援助：浣腸、摘便 1）意義･目的　　2）援助方法の実際	講義	
14		1. 浣腸援助の実施 1）グリセリン浣腸	演習	
15	単位認定試験 まとめ			

評価方法	筆記試験　（食事 30 点、排泄 70 点）		
使用テキスト	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院		
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前学習・事後学習を行う。 技術練習を行う。

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	日常生活の援助技術Ⅲ (姿勢と体位、睡眠と休息)	対象学生・時期	1年生・前期
		時間数(単位)	30時間(1)
講師名	専任教員		
科目目標	1. さまざまな移動方法を理解し、対象の状態・状況に応じた安全・安楽な移動技術を習得する 2. 休息の種類と意義を理解し、適切な睡眠・休息を促すための援助技術を習得する		

回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	活動・姿勢 ボディメカニクス	1. 活動とは 1)活動について　2)活動と休息のバランス 2. 活動・運動能力のアセスメント 3. よい姿勢、体位、ボディメカニクス	講義	①
2	安静による弊害とその援助	4. 安静による弊害 1)身体面に及ぼす影響 2)精神面に及ぼす影響 5. 体位・体位変換、安楽な体位の調整(ポジショニング) 1)良肢位　2)体位変換 3)体位保持(ポジショニング)　4)褥瘡予防 5)関節可動域と自動・他動運動の実際	講義	
3	安全・安楽な 体位変換の方法	6. 体位変換の方法 1)床上での水平移動　2)仰臥位から側臥位 3)仰臥位から腹臥位　4)仰臥位から端座位 5)端座位から立位	講義 演習	
4	安全・安楽な 体位変換の実際	7. 体位変換の実際 1)床上での水平移動　2)仰臥位から側臥位 3)仰臥位から腹臥位　4)仰臥位から端座位 5)端座位から立位	演習	
5	安全・安楽な 移動・移送の方法	8. 歩行介助 9. 車椅子・輸送車への移乗動作・介助・移送 1)目的　2)留意点　3)使用する物品 4)方法　①車椅子　②ストレッチャー	講義	
6	安全・安楽な 移動・移送の実際①	10. 車椅子への移動の実際 1)仰臥位から端座位 2)ベッドから車椅子への移乗	演習	
7	安全・安楽な 移動・移送の実際②	11. 移動・移送の実際 1)歩行・移動介助 2)ストレッチャーへの移乗・移送 3)車椅子の移送	演習	
8	安全・安楽な体位変換 車椅子への移乗①	12. ベッドからの起き上がりと車椅子への移乗 1)床上での水平移動　2)仰臥位から側臥位 3)側臥位から仰臥位　4)仰臥位から端座位 5)端座位から車椅子への移乗	演習	

9	安静による弊害と その援助の実際	13. 安楽な体位調整の実際 1)ポジショニング ①目的　②選択　③留意点	講義 演習	
10	安全・安楽な体位変換 車椅子への移乗②	ベッドからの起き上がりと車椅子への移乗	技術確認	
11	睡眠・休息の援助	1. 休息の種類と意義 1)休息について　2)活動と休息のバランス 2. 安静の弊害 1)褥瘡の発生要因とその予防 2)関節拘縮と関節可動域訓練	講義	
12		3. 睡眠・休息状態のアセスメント 4. 安楽な休息・睡眠を促す援助方法 5. 睡眠障害とその援助方法	講義	
13	安楽確保の技術	1. リラクセーション 1)安楽確保の技術 (1)身体的援助 ①筋弛緩法、②呼吸法・マッサージ、 ③指圧、④音楽療法、他 (2)精神的援助 ①傾聴　②自律訓練法・タッチング	講義	
14		2. 安楽確保の技術の実際 1)罨法　(1)湯たんぽ　(2)冷罨法(氷枕) 3. マットレスの種類と選択	講義 演習	
15	単位認定試験 まとめ			
評価方法	筆記試験(100 点)			
使用 テキスト	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院			
自己学習 時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前学習・事後学習を行う 技術練習を行う	

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	日常生活援助技術Ⅳ （清潔・衣生活）	対象学生・時期	1年生・前期
		講義時間（単位）	30時間（1）
講師名	専任教員		
科目目標	1. 療養生活における衣服の機能を理解し、対象に適した衣服を整える援助技術を習得する 2. 身体の清潔を保つ意義を理解し、対象の状態に適した清潔保持の技術を習得する		

回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	療養生活における衣服の機能	1. 衣服を身に付ける意義 2. 病衣の種類と選び方 1）病床で寝衣交換援助を受ける患者の心理	講義	①
2	対象の状態に適した寝衣交換	1. 安全・安楽を考えた寝衣交換の基本 1）安全・安楽 2）清潔に美しく 3）脱健と着患 4）関節の支え方 5）しわの伸ばし方	講義 演習	
3	人間の健康と清潔	1. 清潔の意義 1）生理的意義・皮膚の解剖生理 2）心理・社会的意義 2. 身体の清潔に関するアセスメントと援助方法 3. 入浴による生体反応 1）温熱刺激による作用 2）静水圧作用 3）浮力作用 4. 入浴・シャワー浴介助の方法	講義	
4	身体各部の清潔の援助	1.整容・口腔ケア 1）口腔の解剖生理 2）整容・口腔ケアが必要な患者のアセスメント 3）整容・口腔ケアの方法・留意点 4）安全・安楽を考えた整容・口腔ケア 5）ケアを受ける患者の心理	講義 演習	
5		2.洗髪 1）頭皮の解剖生理 2）洗髪の援助が必要な患者のｱｾｽﾒﾝﾄ 3）洗髪のエビデンス 4）洗髪の方法 (1) 使用物品(ケリーパッド・洗髪車) (2) ドライシャンプー		
6		3. 洗髪の実際 1）ケリーパッドを用いた臥床患者の洗髪	演習	

7		4. 清拭 1）全身清拭の意義 2）全身清拭の援助が必要な患者のアセスメント 5. 清拭の種類 1）石鹸清拭 2）温湯清拭 3）熱布清拭	講義	
8		6. 清拭の実際 1）石鹸を用いた臥床患者の全身清拭 2）安全・安楽な臥床患者の石鹸を用いた全身清拭の方法 3）援助前・中・後の患者への説明、配慮 4）全身清拭の援助を受ける患者の心理	演習	
9				
10				
11		7. 陰部洗浄 1）男性・女性外陰部の構造 2）陰部を清潔にする意義 3）陰部洗浄の方法		
12		8. 手浴・足浴 1）部分浴の意義 2）部分浴が必要な患者のアセスメント 3）足浴の方法・留意点 4）手浴の方法・留意点	講義 演習	
13		9. 足浴・手浴の実際 1）安全・安楽を考えた足浴・手浴の実際 2)仰臥位での足浴、端座位での足浴、ベッド上での手浴	演習	
14		10. 臥床患者の清拭の技術チェック	技術チェック	
15	単位認定試験 まとめ			

評価方法	筆記試験		
使用テキスト	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院		
備考	14 回目は技術チェック		
自己学習時間	15 時間	事前・事後課題	テキストで事前・事後学習を行う 技術練習を行う

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	ヘルスアセスメント	対象学生・時期	1年生・後期
		講義時間（単位）	30時間（1）
講師名	専任教員		
科目目標	1. 対象の健康状態について、身体的側面および心理・社会的側面から情報収集し、総合的にアセスメントするための基本的知識と技術を習得する 2. 身体的側面については、フィジカルイグザミネーション（身体診査）の基本技法を　系統的に習得する 3. 心理・社会的側面については、必要な理論やツールを用いてアセスメントの視点に　ついて理解する		

回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	看護におけるヘルスアセスメント	1. ヘルスアセスメントの考え方 2. アセスメントのプロセス	講義	
	問診・インタビュー、ヘルスヒストリー（健康歴）	1. 問診の技術 2. セルフケア能力のアセスメント		
2	フィジカルアセスメント	1. フィジカルアセスメントの基本技術 1）基本的な技術 2）目的・方法・留意点		
3		2. 身体各部の測定（モニタリング・フィジカルイグザミネーション）		
4		3. 全身状態・全体印象の把握 4. バイタルサインの観察とアセスメント		
5		5. 体温、呼吸、脈拍、血圧の測定 1）基本的な測定方法	演習	
6		6. 体温、呼吸、脈拍、血圧の測定 1）対象に合わせた測定方法		
7		体温、呼吸、脈拍、血圧の測定	技術チェック	
8	系統別アセスメント	1. ケアにつなげるフィジカルアセスメント 1）アセスメントツール	講義	
	心理・社会的側面からのアセスメント	1. アセスメントの目的と進め方 1）アセスメントの統合		
9	呼吸器系のフィジカルアセスメント	1. 呼吸のフィジカルアセスメントの目的 2. 呼吸のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識 3. 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際（事例検討）	講義 演習	

10	心臓・循環器系のフィジカルアセスメント	1. 心臓・循環器系のフィジカルアセスメントの目的 2. 心臓・循環器系のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識 3. 心臓・循環器系のフィジカルアセスメントの実際（事例検討）	講義 演習	
11	腹部・消化器系のフィジカルアセスメント	1. 腹部・消化器系のフィジカルアセスメントの目的 2. 腹部・消化器系のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識 3. 腹部・消化器系のフィジカルアセスメントの実際（事例検討）	講義 演習	
12	筋・骨格系のフィジカル　アセスメント	1. 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的 2. 筋・骨格系のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識 3. 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際（事例検討）		
13	神経系のフィジカルアセスメント	1. 神経系のフィジカルアセスメントの目的 2. 神経系のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識 3. 神経系のフィジカルアセスメントの実際（事例検討）		
14	頭部、頸部、視聴覚系のフィジカルアセスメント	1. 各フィジカルアセスメントの目的・基礎知識・実際（事例検討） 1）頭頸部 2）感覚器（眼・耳・鼻・口）		
15	単位認定試験 まとめ			
評価方法	筆記試験			
使用ﾃｷｽﾄ	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅰ　　医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック　　医学書院 根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院			
備考	7回目は技術チェック			
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキストで事前学習・事後学習を行う 技術練習を行う	

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	看護の展開方法	対象学生・時期	1年生・後期
		講義時間(単位)	30 時間(1)
講師名	専任教員		
科目目標	1. 対象の持つ健康上の問題を明らかにし、その問題を解決するための系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する		

回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	看護過程の基本となる考え方	１．看護過程とは何か １）看護過程の構成要素 ２）構成要素の関連性 ３）看護過程の利点 ２．日常生活の中での看護過程 ３．看護過程の基盤となる考え方 １）問題解決過程 ２）クリティカルシンキング ３）情報分析 ４）倫理的配慮と価値判断 ５）リフレクション ４．臨床判断モデル	講義	
2	対象の捉え方	1. 人が生きる上での「健康と健康障害」 2. 対象を捉えるアセスメントの枠組み	講義 演習	
3	アセスメント (情報収集・分析)	1. 情報源と情報の種類 1)主観的情報と客観的情報 2. データ収集方法 3. 情報の分類と整理 1) アセスメントの過程とアセスメントの視点 2) アセスメントの枠組みに沿った情報	講義 演習	
4		４．情報分析方法 1)情報の分類と整理 2)情報の意味・解釈	講義 演習	
5			講義 演習	
6		5. 総合 １）仮診断	講義 演習	
7	全体像の図式化	1. 関連図とは、関連図の役割、種類 2. 書き方	講義 演習	
8				
9	看護問題の明確化	1. 看護診断 1)看護診断名 2)関連(リスク)因子 3)症状徴候 2. 照合、看護診断の表記 3. 看護問題と共同問題 4. 優先順位の考え方	講義 演習	
10				

11	看護計画	1. 看護目標と成果 1)看護目標 2)OUTCOME 2. 看護計画立案のプロセス 1) 具体的方法 2) 実施上の留意点（安全、安楽、自立） 3) 倫理的配慮 3. 標準看護計画 4. クリティカルパス	講義 演習	
12			講義 演習	
13	実施・評価	1. 実施 1)実施上の留意点(安全、安楽、自立) 2)倫理的配慮(説明と同意、プライバシー) 2. 評価 1)評価の視点および時期 2)看護計画の修正 3)リフレクション	講義 演習	
14				
15	まとめ			

評価方法	課題 100 点		
使用テキスト	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 看護診断ハンドブック　医学書院 看護過程に沿った対症看護　-病態生理と看護のポイント-　学研		
備考	シミュレーション学習を含む		
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前・事後学習を行う

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	診療に伴う技術Ⅰ	対象学生・時期	1年生・後期
		講義時間（単位）	30時間（1）
講師名	専任教員		
科目目標	1. 診療と検査の意義・目的を理解し診察・検査・処置をうける対象への看護技術を習得する。		

回数	主　題	主な学習内容	授業形態	担当
1	診療の補助技術と看護師の役割	1. 診療と診察 2. 診察の意義 1）診察の目的 2）診察の方法 3）診察時の看護 3. 検査・処置の意義 1）検査・処置の目的 2）検査の種類と特徴 3）処置の種類と特徴 4）実施上の留意点 4. 検査・処置における看護師の役割 1）検査・処置の説明 2）苦痛の軽減 3）危険の察知と対処 4）医師や技師との連携	講義	
2	検査時の看護	1. 検体検査 1）尿　2）血液 3）喀痰　4）胸水・腹水ドレナージ 5）便 2. 生体検査 1）心電図 2）X線単純撮影検査 3）ＣＴ検査 4）MRＩ検査 5）核医学検査 6）超音波検査 7）内視鏡検査 3. 検体の取り扱い 1）6R　2）必要量 3）保存方法　4）時間	講義	
3	穿刺・洗浄時の看護	1. 穿刺時の看護 1）胸腔穿刺　2）腹腔穿刺 3）腰椎穿刺　4）骨髄穿刺 2. 洗浄時の看護 1）胃洗浄　2）膀胱洗浄	講義	
	創傷管理	1. 創傷の治癒経過と影響因子 2. 創の種類 3. ドレッシング材の種類と特徴 4. 包帯法		
4	救急法と看護	1. 救命救急技術 1）救命救急処置の基本知識 2）一時救命処置 3）止血法	講義	
5	呼吸器系の処置時の看護	1. 酸素吸入療法（酸素療法） 1）酸素とは　2）酸素療法の適応 3）酸素吸入の方法と看護	講義	

		2. 吸入療法 1）ネブライザー吸入療法 （1）目的　（2）適応 （3）方法と看護　（4）注意点 3. 持続吸引 1）胸腔ドレナージ		
6		4. 酸素吸入の実際 1）酸素吸入 2）中央配管、酸素ボンベの取り扱い	演習	
7	排痰時の看護	1. 吸引 1）口鼻腔吸引 （1）適応（2）方法と看護 （3）合併症、注意点 2）気管内吸引 （1）適応（2）方法と看護 （3）合併症、注意点 2. 排痰ケア 1）体位ドレナージ	講義	
8		3. 吸引の実際 1）口鼻腔吸引 2）気管内吸引	演習	
9	血液検査の看護	1. 採血法の基礎知識 1）血液検査と種類 2）採血に適した静脈の位置と名称 2. 安全な採血 1）採血時の合併症 2）安全安楽な採血方法と根拠 3）採血に伴う看護師の法的責任と倫理	講義	
10		3. 採血の実際 1）注射器を用いた静脈血採血 2）採血ホルダーを用いた静脈血採血	演習	
11				
12		採血ホルダーを用いた静脈血採血	技術確認	
13	ＭＥ機器の原理と看護の役割	1. ＭＥ機器の構造 2. ＭＥ機器の管理	講義	
14		3. 目的・適応・看護 1）輸液ポンプ・シリンジポンプ 2）ベッドサイドモニター 3）パルスオキシメーター	講義 演習	
15	単位認定試験 まとめ			

評価方法	筆記試験		
使用テキスト	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 系統看護学講座　臨床看護総論　医学書院 根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院		
備考	12 回目は技術確認		
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前学習・事後学習を行う。 技術練習を十分に行い、技術習得に努める。

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	診療に伴う技術Ⅱ	対象学生・時期	1年生・後期
		講義時間（単位）	30時間（1単位）
講師名	専任教員		
科目目標	1. 薬物を取り扱う際のチームにおける看護師の責任と役割を理解する 2. 薬物療法の意義・目的を理解し、薬物療法を受ける対象への看護技術を習得する		

回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	薬物療法時の看護師の役割	1. 正しい与薬 1）与薬の目的 2）与薬の基礎知識 3）看護師の役割 2. 薬の管理 1）毒薬 2）劇薬 3）麻薬 4）血液製剤 5）抗悪性腫瘍薬	講義	
2	与薬の方法	1. 経口与薬・口腔内与薬 1）経口与薬・口腔内与薬の適応 2）内服薬の種類 3）与薬方法 4）服薬支援	講義	
3		2. 経口与薬の実際 1）薬剤・患者確認 2）経口与薬の実際	演習	
4		3. 吸入 4. 点眼 5. 点鼻 6. 経皮的与薬 7. 直腸内与薬 1）経皮・外用薬の種類 2）経皮・外用薬の与薬方法 3）経皮・外用薬の吸収経路	講義	
5		8. 注射 1）注射と法律 2）注射の種類 3）注射器・注射針の種類と選択	講義	
6		9. 注射の準備 1）注射器の準備、取り扱い 2）アンプルからの吸い上げ	演習	

7	与薬の方法	10. 注射の方法 1）皮内注射 2）皮下注射 3）筋肉注射	講義	
8		11. 注射の実際 1）筋肉注射	演習	
9		2）筋肉注射の技術習得		
10		患者確認と注射：筋肉注射	技術 チェック	
11		12. 注射準備の実際 1）バイアルからの吸い上げ 2）ミキシング	演習	
12		3）プライミング 4）三方活栓の取り扱い 5）点滴管理：滴下調節、観察		
13		13. 注射の実際 1）静脈内注射		
14		14. 輸血管理 1）輸血の目的 2）輸血の基礎知識 3）輸血時の看護師の役割 4）輸血時の看護	講義	
15	単位認定試験 まとめ			

評価方法	筆記試験		
使用ﾃｷｽﾄ	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術　　医学書院 今日の治療薬　　南江堂		
備考	10 回目に技術チェック		
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前学習・事後学習を行う。 技術練習を十分に行い、技術習得に努める。

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目名	看護研究	対象学生・時期	2 年生・後期
		講義時間（単位）	15 時間（1）
講師名	専任教員		
科目目標	1. 看護研究の意義と必要性を学び、研究方法の基礎を理解する		

回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	研究の意義・必要性	1. 看護研究の意義・必要性・重要性 2. 研究の条件 1）ＥＢＮとは 2）研究疑問とは	講義	
2		3. 看護理論と看護研究 4. 看護研究における倫理的配慮		
3	研究の種類と研究の方法	1. 研究の種類と研究の方法 1）研究デザイン 2. 研究過程 3. 研究計画書の必要性と書き方 4. 研究論文の種類と構成 5. 抄録の作成と発表方法		
4				
5	文献検討との活用	1. 文献検索の意義・文献の探索法 2. 文献の読み方、整理の仕方	演習	
6		3. 文献検討の実際 1）文献検討 （1）研究計画書		
7				
7.5	単位認定試験			

評価方法	筆記試験・レポート		
使用ﾃｷｽﾄ	系統看護学講座　看護研究　医学書院		
備考			
自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	テキストで事前・事後学習を行う 課題に取り組む

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目名	看護研究演習	対象学生・時期	3 年生・前期
		講義時間（単位）	15 時間（1）
講師名	専任教員		
科目目標	1. 研究クリティークの方法を理解し、適切な文献の活用ができる 2. 自己の看護実践の意味づけができる		

回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	研究成果の活用	1. 研究クリティークと研究成果の活用 1）論文の読み方 （1）論文の構成　（2）クリティーク	講義 演習	
2		2. クリティークの実際 1）文献の活用		
3	看護実践の意味づけ	1. 看護の振り返り方法 1）意義　2）目的 3）理論と研究との関係 4）看護実践の中の研究的な視点 5）論文作成にあたっての倫理的配慮 6）研究計画と文献検討 （1）テーマの設定 （2）計画書の作成		
4		2. 論文の構成要素と内容 1）表題　2）はじめに 3）事例紹介　4）看護の実際 5）考察　6）結論 7）おわりに 3. 論文記載への取り組み方		
5		4. 論文作成 1）研究論文作成の実際と指導		
6		5. 発表準備の方法 1）抄録の作成 2）口頭発表の内容 （1）発表原稿・スライド （2）ポスターセッション （3）分かりやすいプレゼン ①時間配分 ②質問内容、質問への答え方		
7 7.5		6. 論文発表 1）発表会　2）講評	演習	

評価方法	レポート　発表内容		
使用ﾃｷｽﾄ	系統看護学講座　看護研究　医学書院		
自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	テキスト、文献で事前・事後学習を行う 課題に取り組む